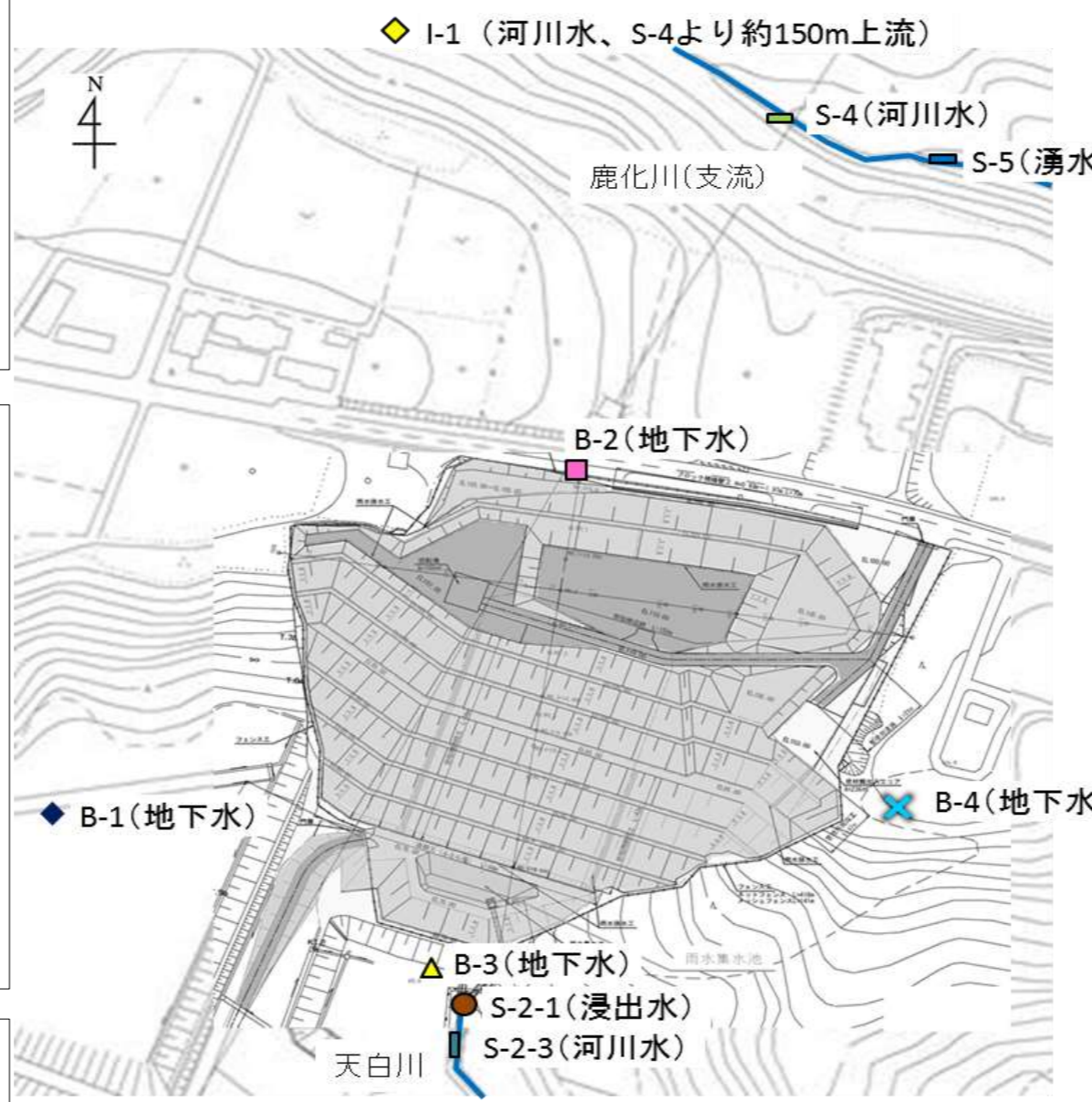
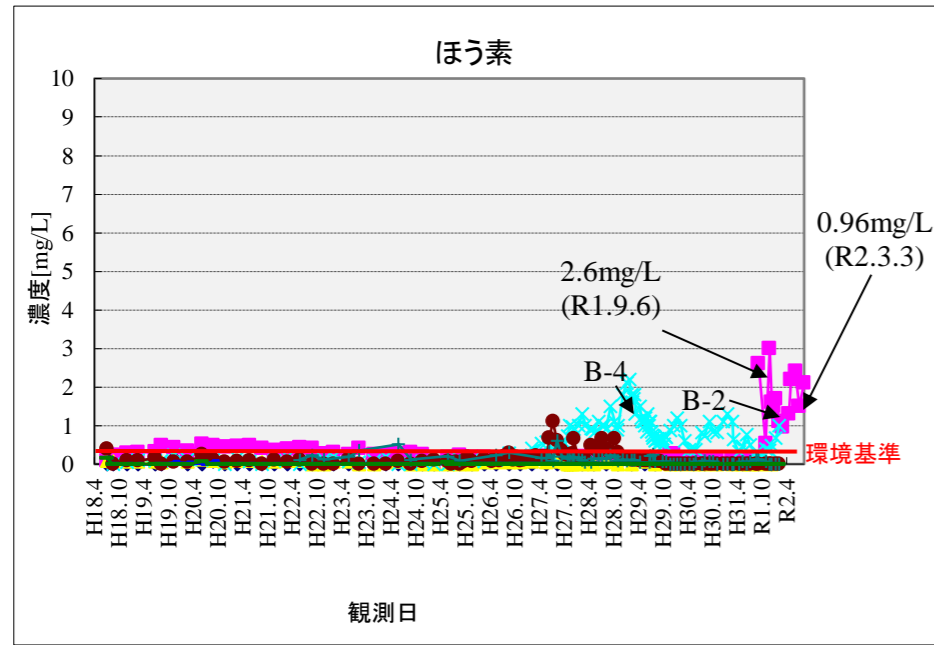
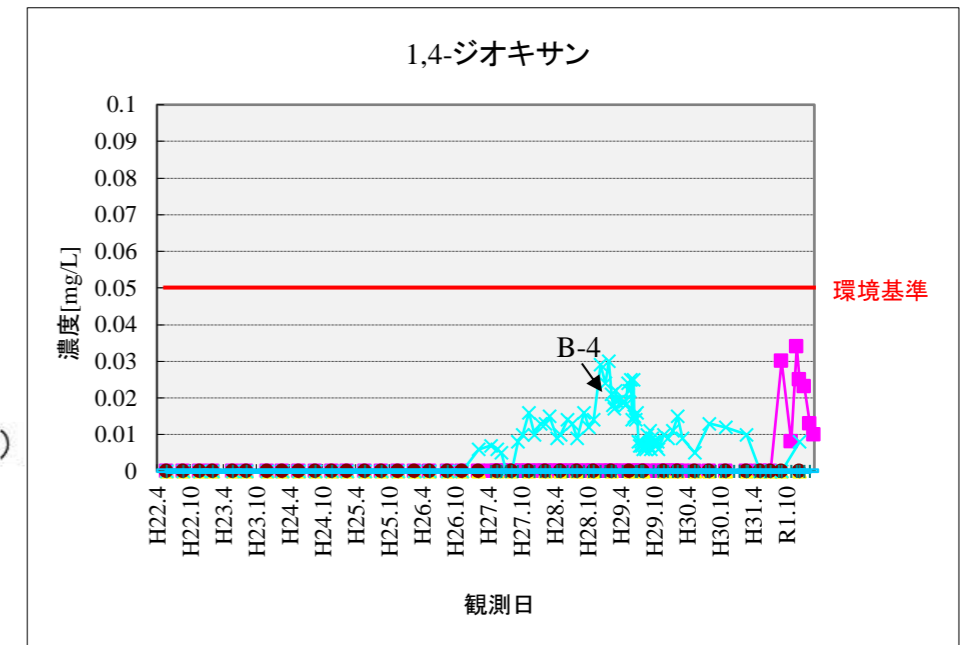
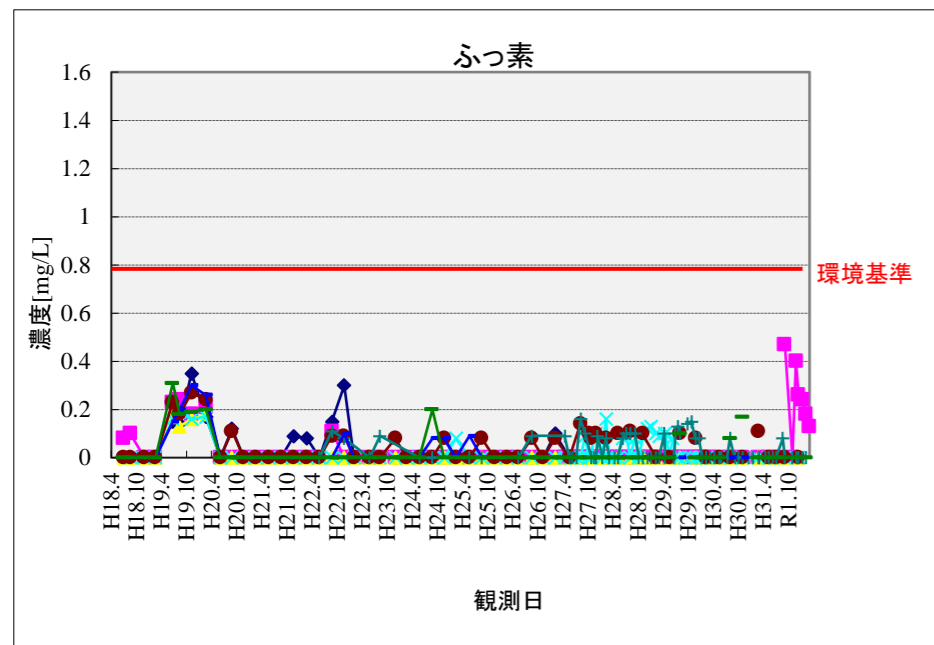
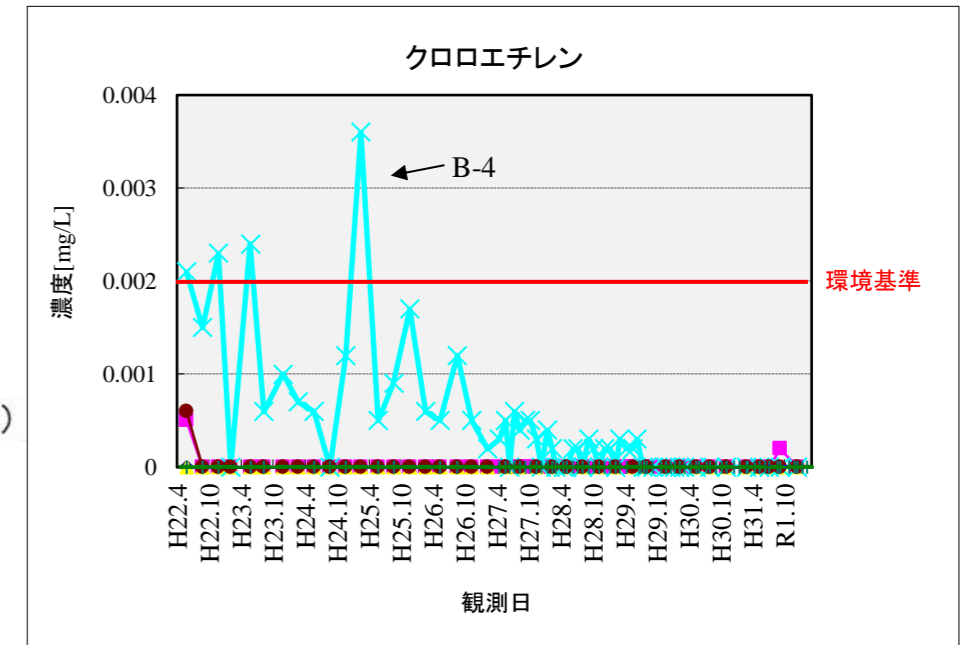
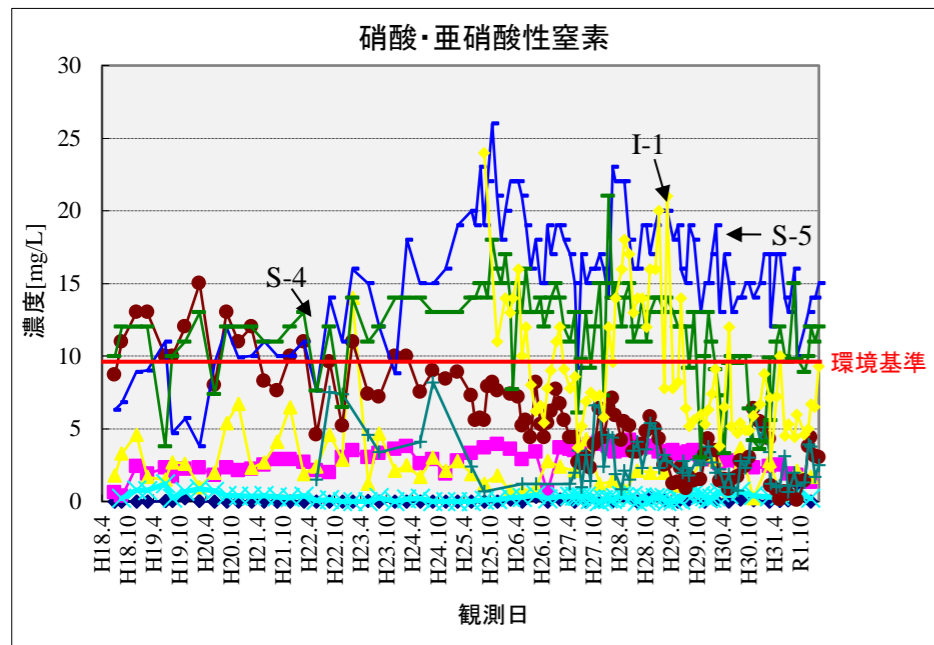


# 水質のモニタリング結果（周辺）

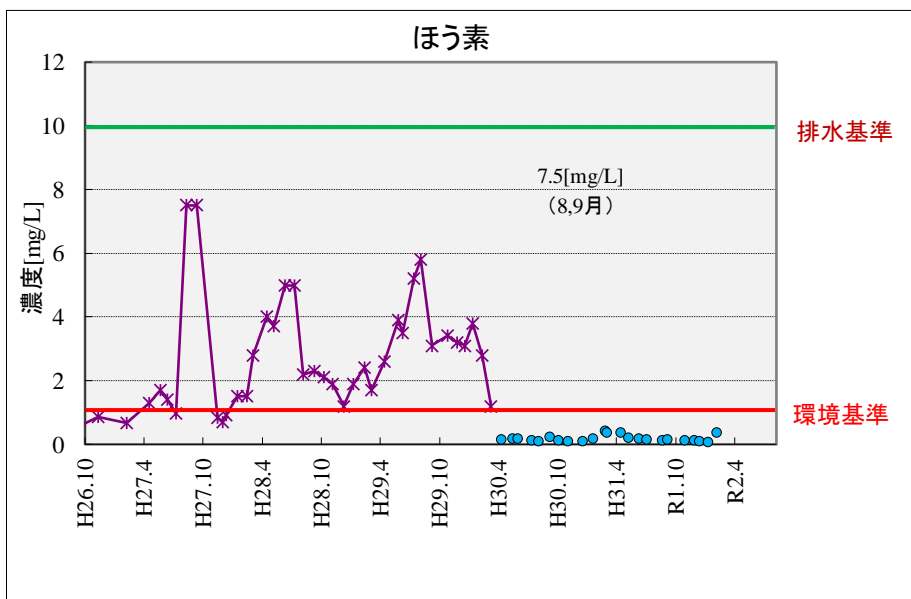
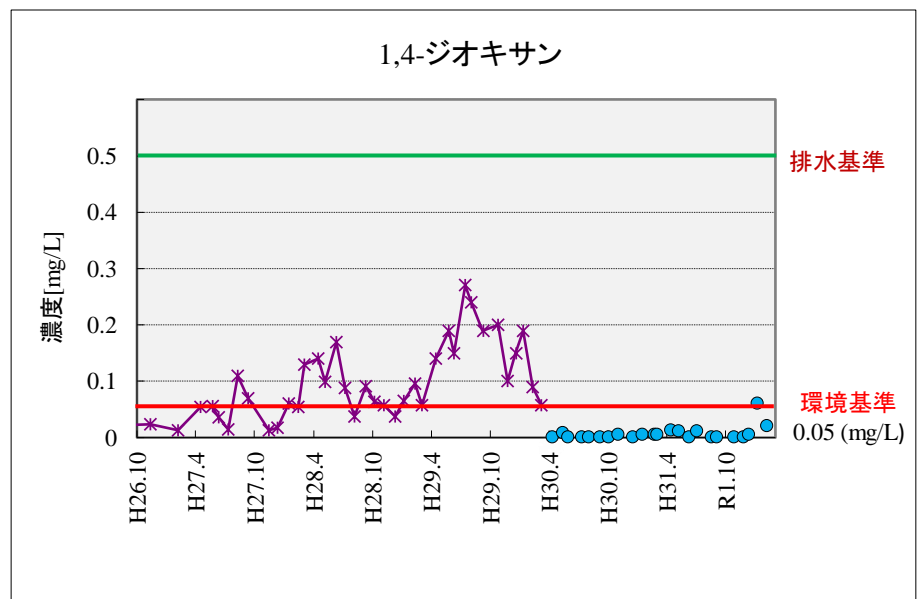
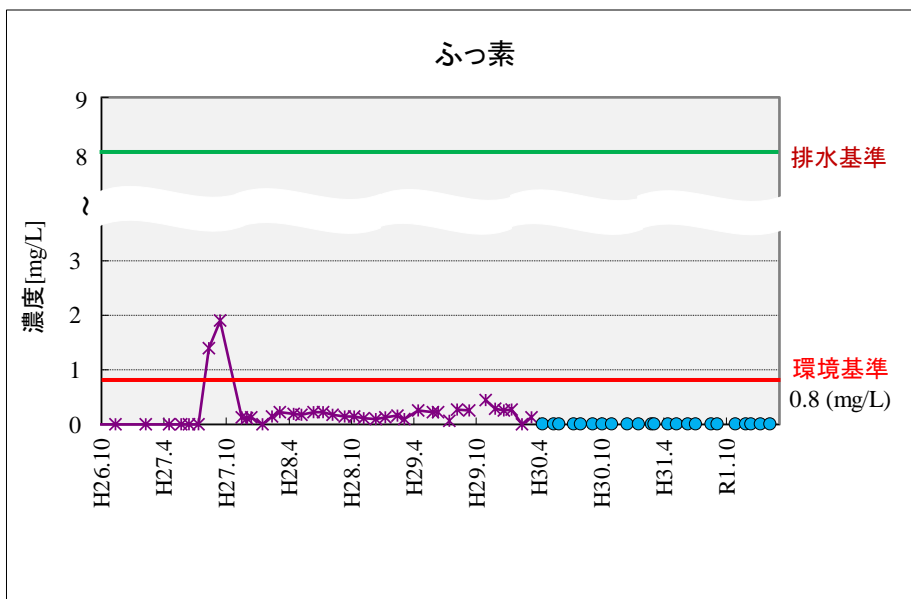
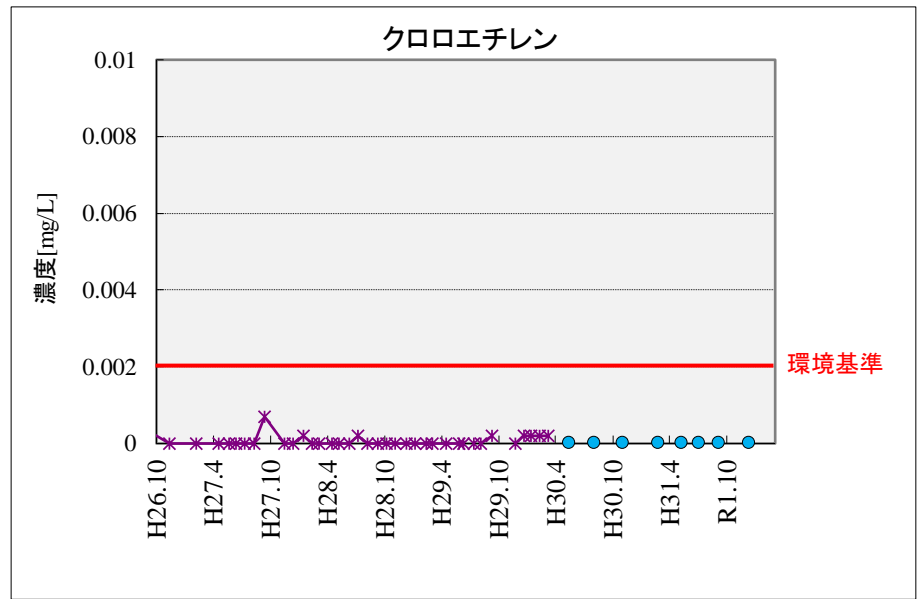
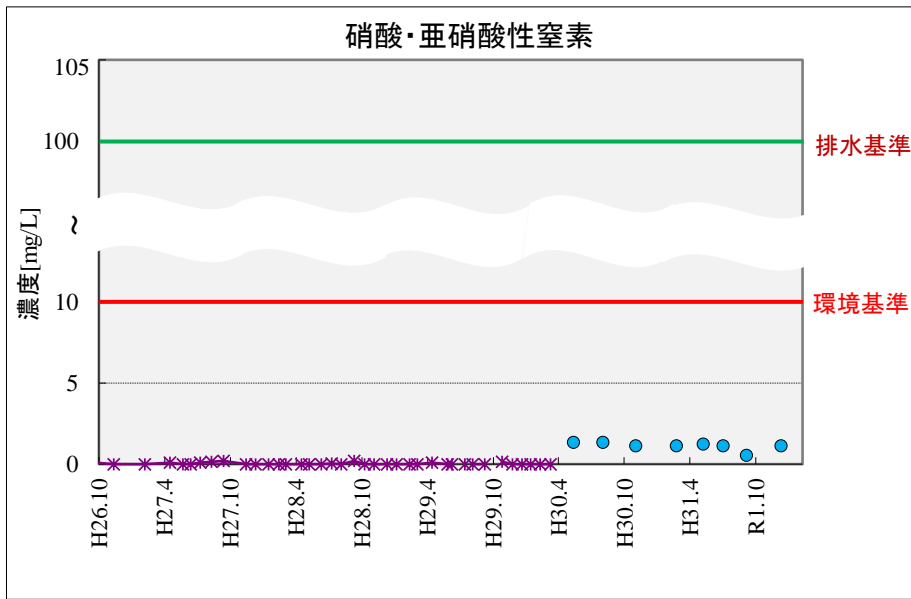


凡例

◆	B-1	} (地下水)
□	B-2	
△	B-3	
×	B-4	
●	S-2-1 (浸出水)	
■	S-2-3 (河川水)	
▣	S-4 (河川水)	
▤	S-5 (湧水)	
◇	I-1 (河川水)	

※環境基準について(参考: 環境省ホームページ)  
 人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として、終局的に、大気、水、土壌、騒音をどの程度に保つことを目標に施策を実施していくのかという目標を定めたものが環境基準である。  
 環境基準は、「維持されることが望ましい基準」であり、行政上の政策目標である。これは、人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていくものである。

# 水質のモニタリング結果（事案地）



※排水基準について(参考: 環境省ホームページ)

本紙に示す「排水基準」は、公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図り、国民の健康を保護するとともに生活環境の保全すること等を目的として制定された水質汚濁防止法に規定された基準である。水質汚濁防止法では、特定施設を有する事業場(特定事業場)から排出される水について、排水基準以下の濃度で排水することを義務づけている。本排水基準は、基本的には環境基準を達成することを目的に環境基準をもとに定められており、健康項目の排水基準は環境基準の原則として10倍のレベルとされている。なお、塩化ビニルモノマーについては排水基準が設定されていないため、環境基準のみを記載している。(なお、管理型処分場の放流水に関する排水基準については、水質汚濁防止法の基準値が適用されている。)

※平成30年4月から代替井戸b-5'でモニタリングを実施しています。